

こころ医療福祉専門学校佐世保校
平成30年度第2回教育課程編成委員会議事録

【日時】平成31年2月17日（日）10:30～11:10

【会場】こころ医療福祉専門学校佐世保校 2階 会議室

【委員】出席：田中秀樹（長崎県柔道整復師会佐世保支部）

山頭正代（あんじゅ鍼灸院）

廣瀬典治、館川大輔、中村裕也、永田俊晴、甲斐明日美

欠席：井手浩二（いで整骨院）

諸岡辰巳（長崎県鍼灸師会）

（敬称略）

1 開会の辞（司会 館川大輔）

本会の開会目的及び配布資料の説明を行う。

2 委員の紹介（司会 館川大輔）

各委員の紹介を行う。

3 学校長挨拶（校長 廣瀬典治）

日頃より本校の教育方針にご理解とご支援をいただき感謝する。平成30年度第2回「教育課程編成委員会」を開催する。第1回教育課程編成委員会や、各学科の分科会でも貴重なご意見やご教示、ご質問をいただき感謝する。

本日の議題は、各学科についての今年度の反省や改善点が主題になるが、柔道整復科については、新カリキュラムの実施状況や、その課題や問題点等について挙げられる。健康鍼灸科については、今年3月に閉科を迎えることになる。現在の在籍学生7名と教員が一丸となり、国家試験合格へ向けて必死に努力している。閉科後の卒業生の研修等については、長崎校との連携を取りながら対応していく。委員の皆様には、閉科までや閉科後の指導の在り方について、ご意見やご教示をいただきたい。

本日は、ご多用な中の貴重な時間を頂戴し、誠に恐縮ではあるが、業界・社会のニーズと時代に合った質の高い卒業生を社会に送り出すために、皆様方の忌憚のないご意見やご教示をいただきたい。

4 柔道整復科（学科長 舘川大輔）

（1）教育計画

まず今年度の反省点として良かった点と改善点を挙げている。良かった点の一つ目に、2年生に放課後補講を開始した。昨年度までは3年生のみ実施していたが、今年度からはさらなる学力の向上を図ることを目的に、2年生後期から週2回の放課後補講と月1回の実力試験を実施することとした。二つ目に、トレーナー部の校外活動を行った。校内活動は週1回放課後に実施し、テーピング等の実技指導を行っている。校外活動は、11月18日に長崎ベイサイドマラソン、11月23日に伊万里ウォーク、12月9日長崎県高等学校ハンドボール大会等の各イベントに参加した。三つ目に、新入職員2名が入職した。佐世保校健康鍼灸科から篠原教員、長崎校の卒業生から湯村教員が入職し、学科に貢献していただいている。四つ目に、新カリキュラムについてである。今年度の1年生が新カリキュラムに該当するが、現段階では問題なく遂行できている。五つ目に、認定実技審査についてである。今年度から審査要領が大きく変わっており、審査項目が27項目から31項目に変更になり、審査室も1部屋から2部屋に変更になった。その対策として昨年度2年生時点から実技習得に力を入れ、取り組んできたことにより、無事全員合格することができた。

今年度の反省点として、定員の不足がある。次年度の募集状況は、30名定員で18名が入学予定である（2月1日現在）。原因としては、オープンキャンパスへの参加が少なく、特に今年度は県北高校の新卒学生の参加者数が著しく少ない。さらに、例年3～5名入学希望者のある提携校からの入学生が、今年度は0名という状況である（2月1日現在）。

次に、次年度の改善策を三つ挙げている。一つ目に、放課後補講のさらなる充実である。今年度から2年生後期から実施をした。次年度は、1年生後期から実施を計画しており、さらなる学力向上を図る。二つ目に、トレーナー部の活動内容の見直しを考えている。新たな競技（柔道、ラグビー、ハンドボール等）を追加し、応急手当や処置の指導に力を入れる。在校生の満足度を上げることや、外部からの学校の認知度を上げることにつながると考えられる。三つ目に、学生募集のさらなる充実である。具体的には提携校へのアプローチの仕方を変える。昨年度までは高校3年生にガイダンスを行っていたが、すでに進路が決まっている学生が多く、柔道整復師という職に興味を持ってもらうことが難しいという状況があった。今年度からは、2年生に対してガイダンスを行い、アプローチをかけることができているため、次年度の結果につながるのではないかと期待がある。また、認知度の向上を図るという点で、医療職としての「柔道整復師」を積極的に打ち出す。具体的には、他の医療職（理学療法士、介護福祉士等）希望者へも「柔道整復師」の仕事を積極的に紹介し、興味を持ってもらうというところにつながるよう、多方面への職業紹介に力を入れていく。

次に、国家試験についてである。第27回柔道整復師国家試験は11名が受験予定で

ある（2月1日現在）。2月の卒業試験での結果次第で人数は変動がある。

最後に、就職内定者についてである。9名が内定をもらっており、9名全員が整骨院に内定している。就業場所の内訳は、県内が7名、県外に2名という状況である（2月1日現在）。

（2）質疑応答

田中）新カリキュラムの臨床実習はどのように行われるか。

舘川）新カリキュラムから臨床実習は外部の施設や企業に依頼することになる。実施期間は、夏季休暇中の8月に10日程度、春季休暇中に2～3月に20日程度の実習を計画している。新年度に入った頃に施設や企業と打ち合わせを行い、より詳細なスケジュールを決定していく。実習の内容は、詳細は施設や企業との打ち合わせでの決定になるが、見学型もしくは体験型の実習になるかが大きく分かれる。多くは見学型の実習だろうが、施設や企業によっては体験型の実習をしていただけることも期待できる。学校側としては、学校の中では実際の現場の空気感を教えることが難しいため、外部で実習する際に、見るができない症例や独自の治療法、現場の空気感や患者とのコミュニケーションを勉強してほしい。

田中）現時点での次年度の入学予定者の内訳を知りたい。

舘川）現在決定している入学予定者の18名のうち、男性13名、女性5名。社会人8名、新卒10名と社会人が多く、約半数が社会人となっている。出身地別では、佐世保市9名、平戸市1名、波佐見町2名、長崎市1名、佐賀県4名、熊本県1名となっている。熊本県の1名は、長崎校の卒業生であり、柔道整復師の資格を取りたいということで出身校の姉妹校である本校を選択している。

田中）長崎校はどうか。

舘川）長崎校は、入学予定者が26名。男性19名、女性7名。社会人3名、新卒23名。出身地別では、長崎市11名、諫早市5名、大村市1名、西彼杵郡3名、五島市1名、島原市4名、千葉県1名となっている。

田中）佐世保校は長崎校と比べても社会人の割合が高いが、年齢層はどうか。

舘川）若い方で20歳程度である。一度就職をしているが、資格を取りたいという思いから入学を希望している。また専門的な医療を勉強したいという40歳程度の方もいるようで、年齢層はばらけている。

田中）年齢層はばらけた方がお互いにとって刺激になってよい。

田中) 学生の質の低下は以前から課題となっているようだが、どう向上させるか。

舘川) 学生の質といえば限局的だが、学力は下がってきている。対策として一番効果が見込まれるのは、補講の充実である。通常授業の中で学力の向上を図るのはもちろんだが、それだけでは足りないため、追加で補講を行い、フォローをする。また通常授業では、非常勤の先生方に個別で授業内容の要望を伝えていくことを考えている。要望の具体的な内容としては、月1回の小テストの実施である。また、常勤から実施をしていく予定だが、家で勉強をする習慣をつけさせるために、特に復習に関する宿題を出すということである。将来的には非常勤の先生方にも依頼をしたいと考えている。

田中) 私たちの学生時代には宿題というシステムがなかったので良いと思う。

田中) 国家試験合格が大きな目標ではあるが、留年生の合格率が下がることについての対策はどうか。

舘川) 留年生の国家試験合格率は、本校も全国的に見ても高くない。本校の取り組みとしては、留年生は通常の受験生と同じ扱いをしている。具体的には、留年生に対しても基本的には授業はすべて参加するよう指導している。また3年生の成績不良者に対しての週3回の放課後補講にも参加を促している。ただ、授業や補講に参加していないというのが現状である。そのため、張り合いがなく競争意識が上がらないためか、なかなか成績が上がらない。月1回の模試の結果を基に面談を行い、指導をしているが、成果としては出ていない。今後の課題であるため、留年生に対しての指導の在り方は考えていく。

5 健康鍼灸科 (学科長 中村裕也)

(1) 教育計画

健康鍼灸科は今年度をもって閉科となる。まずは、在学生について報告をする。在学生は現在7名。全員が定期試験、卒業試験等を通過し、国家試験は全員が受験予定である。全員の卒業も確定している。また、前年度までの卒業生で資格取得できていない者が5名いる。今後受験をする場合に、佐世保校で受験の手続きができるように引継ぎ等を行う。

次に、卒業生に対しての卒後教育は、長崎校と連携を取り、長崎校で行う卒後教育は佐世保校の卒業生へも郵送等で連絡がいくようにする。

次に、卒業生へのサポートとして、卒業生が研修会や勉強会を行う際には、佐世保校のベッドのある教室を使用できるように手配を行っている。また、卒業生会等を行う際には、佐世保校に連絡を入れれば、佐世保校から卒業生等に郵送等での対応をする。以上のことについて、廣瀬校長からの承認を得ている。

(2) 質疑応答

山頭) 在校生 7 名全員の国家試験合格を祈る。閉科後の卒業生に対しての連絡については不安があったため、フォローがあるというのは安心する。

6 全体の質疑応答

山頭) 卒業生の報告になるが、佐世保校の柔道整復科 1 期生が平戸市で開業しており、患者様も多く来院していると、いい噂を聞いている。いい卒業生が出たと思って感心している。

田中) これから入試の予定はあるか。

舘川) 実施予定である。3 月の入試で 1 名は受験予定がある。オープンキャンパスの実施予定もあるため、これからの入試で入学者は増える可能性はある。

山頭) 日本全体でのはり師きゅう師の養成施設への入学率はどうか。

中村) 全体的に減っている。もともと入学希望者の母数が多いわけではなく、養成施設が急激に増えたという面もあり、業界全体で見ても入学率は高くはない。ある程度淘汰されていくのではないかと思う。

7 閉会の辞 (司会 舘川大輔)

以上で本委員会を終了する。